

2016（平成 28）年度 東北福祉大学 通信教育部

スクーリング・アンケート自由記述（抜粋）

紙数の関係でごく一部のみしか掲載できませんでした。

ここにあげたもの以外にも多くのご感想・ご意見をいただき、ありがとうございます。

（目次）	共通基礎科目・その他の選択科目……………	p. 1
	社会福祉士指定科目……………	p. 5
	精神保健福祉士指定科目……………	p. 11
	心理系専門科目……………	p. 14
	教職系科目・幼保特例講座科目……………	p. 20
	オンデマンド・スクーリング開講科目……………	p. 21

共通基礎科目・その他の選択科目

●ボランティア論

- ・ボランティアの考え方や様々なボランティア活動があることが理解できた。これから自分が活動するときの基礎が備わったと思いました。今後できる限り活動していきたいです。
- ・意義や意味を理解していませんでしたが、ボランティア活動を通じて互いが成長していくことに気がつきました。経験者からの話を聞き失敗を恐れず取り組んでいくことで、自分自身が成長し、また、共生していることが分かりました。

●科学的な見方・考え方

- ・レポートの書き方について確認できて良かった。今回の講義で学んだことをレポート作成に活かしたい。
- ・科目名だけで難しい教科だと思いこんでいた。こんなにレポートを書くにあたり役立つ科目なら、もっと早くから受講したかった。現在書かなければならないレポートがあるので、この科目で学んだことを参考に仕上げていきたい。

●基礎演習

- ・2年生になってからの「基礎演習」だったが、レポートの書き方やスクーリング時の宿の情報交換など有意義な情報を沢山得ることができた。1年生の初期に受講しておけばよかった。

- ・初対面の方が殆どでしたが、すぐに打ち解けいろいろな話をする事ができ、グループワークを通じて、講義形式では難しい大切な仲間に出会うきっかけとなりました。
- ・レポートの書き方が分からず、一度書く事をやめてしまっていたが、基礎演習を受けて悩んでいたことが解決できました。大変参考になった。

●情報処理 I

- ・分からないところがすぐに先生に質問でき大変良かった。インターネット接続や基本的な操作方法について分かりやすく説明してもらえた。今後のパソコン操作に役立つ貴重な授業でした。

●福祉と経済

- ・「福祉」と「経済」を関連づけるという視点を今まで持っていなかったので、とても刺激を受けました。
- ・初めてのスクーリングで不安でしたが、難しい経済のことをとても面白く分かりやすく説明されたので理解できました。満足できるスクーリングでした。

●法の基礎

- ・難しく捉えていた「法」について、専門用語が多いが分かりやすくかみ砕いて説明していただき非常に理解しやすく、今後も継続的に法について学びたいと思った。
- ・様々な法律を理解していくことで、現在の仕事や生活に大きく影響していくことを知ることができた。些細なことでも私たちが有利や不利になることが恐ろしいと感じました。

●人間と教育

- ・教育の考えの変遷、歴史、背景を教えてくださいましたが、そこに心に響く言葉の数々にとても感動しました。多くの受講生の励みと背中を押して下さったと思います。自己紹介を取り入れていただき、多くの人たちと共有感が生まれ、また自分も頑張ろうという気持ちになりました。

●政治学の基礎

- ・自分達が毎日経験している政治という現実に対して、学問としての政治学を学べたことで、今まで以上に冷静に政治というものを考察できるようになりました。

●人権と福祉

- ・福祉を職業としていくうえで、知識だけではなく人との関わりが相手の人生を左右するくらい重要なことだと改めて考えさせられた。また、グループワークを経験しましたが、様々な環境の方々と話し合っ、考えを聞くことで知識が深まりました。
- ・なぜ大学で学ぶのかという「問い」から始まり授業が展開されていくため、考える力が

身につくと思いました。そして、「楽しく学ぶことが学問です。」と話されており、楽しく自分に問いかけながら考えることができる授業でした。

●社会福祉学入門

- ・福祉の勉強をしようと思ったのは、自分の仕事に福祉の知識が必要だと気づいたからです。そもそも福祉が何なのか全く知りませんでした。教科書を読んでも何となくのイメージしか無かったのですが、今回受講して分かってきました。初心者として受けてよかったです。今後障害者についての勉強もしようと思います。
- ・精神保健福祉士の受験対策として受講しました。社会福祉の生まれた背景と変遷は多くの科目に共通の知識であり、頭の中がすっきりしました。多くの学生に導入知識ばかりでなく、まとめとしても受講することを勧めたい。

●生命の科学

- ・講義内容も教科書の内容も非常に分かりやすく理解しやすかった。自己学習で教科書が分かりやすいと理解が深まる気がした。生命の知識だけでなく福祉に関わる話もあり、様々な視点で考える授業でした。

●スポーツ（バレーボール）

- ・初心者でも楽しめるよう柔軟なルールを考える試みは、医療や福祉の業務に従事する際とても仕事に活かせるアイデアだと感じました。今後、高齢者や障害者の特性に合わせたスポーツを考えていくヒントとなりました。

●認知症介護論

- ・認知症を理解することは、人間を理解することという言葉が印象的だった。今や認知症は身近なものとなり、分かったような気でいたが、全人的に見るという考えはソーシャルワーク全てにおいて、基本となるものだと改めて考えさせられた。

●知的障害者福祉論

- ・先生の熱意を感じることができる講義でした。知的障害者の行きづらさを考えさせられました。私たちに何ができるのか、それは「障害」という概念を取り払い、同じ人として接することではないかと考える反面、それを社会が難しくしたのだと改めて考えさせられた。

●NPO論

- ・ソーシャルワークの連携の中にボランティアやNPOが重要だと思っていた。しかし、NPOについて耳にすることはあっても、詳しく理解する機会がなくスクーリングを受講した。福祉NPOが、なぜ多くの割合を占めているのかなど、DVDなど交えて具体

的に知ることができよかった。自分が暮らす地域のNPOについて更に知りたいと思えるようになった。

●福祉リスクマネジメント

- ・丁寧な説明で判例をイメージしやすいような例示を出していただき理解しやすかった。「相当因果関係」について、どこまでを考えるのか、また考えうることを満たしていくことで、リスクを減らすことができるのかなど、今後の課題を発見した。
- ・リスクマネジメントは、毎日現場で起きることなのでとても興味があった。実際のケースをやったことで、身近に感じ考えさせられた。

●福祉用具と生活支援

- ・福祉用具と使用者の正しい適合によって、生活環境に大きく作用すること、そしてその環境が変化することで、使用者がその人らしく生活できることが、社福士の専門性に繋がることを学び、とても大切なことであると認識することができました。

●医療・福祉経済論

- ・配布された資料は日本国民の実態調査と分析であり、興味深いものであった。手に入れるには難しい資料だと思った。また、資料内容と経済のつながりについてスクーリングを受けてとてもよく理解でき、教科書では知り得ない知識やあまり理解のなかった経済用語もよく分かり、今後のニュースにも関心を持ってみるきっかけになった。

●レクリエーション概論

- ・レクリエーションを通じて、場の雰囲気や和ませることができ、コミュニケーションが取れることで、相手との距離感を縮ませることができると感じました。
- ・このような楽しいスクーリングは初めてでした。職場に戻ったら実際にレクの時間にやってみたいです。

●レクリエーション実技

- ・簡単な道具で世代を問わず、レクリエーションできるということが実際に体験してみるとよく理解できた。グループ対抗になると風船1つで皆が熱中できるが、一番大切なのはコミュニケーションを取るのだということがよく分かった。

社会福祉士指定科目（精神保健福祉士との共通科目含む）

●社会福祉原論（職業指導も含む）

- ・言葉の意味を一つ一つ根拠から考えるということを学んだ。その制定された法律の裏側や真実を理解することは大切なことであると感じた。「現代社会とはいつのことだろう」「家族とは」身近なことから追求していくことを実践していきたい。
- ・スクーリングを通して、自分自身のものの見方や捉え方に変化があったように思います。先生がおっしゃっていたように、少し社会福祉の学習が深まりなかなか進まなかったレポート課題にも、先生からたくさんの助言をいただき、自分なりの社会福祉観を整理してみようと思いました。

●地域福祉論

- ・地域福祉が大事であるということは何となく感じていましたが、今回の講義で地域での福祉がいかに難しいことかを改めて感じた。またコミュニティソーシャルワークという仕事があることも初めて知った。講義を受けたことで現代福祉を考えると地域福祉を理解していかなければならないと感じた。

●社会保障論

- ・興味深い理解しやすい事例があり、身近に感じながら学ぶことができました。敬遠しい苦手な分野だったが、とても生活に関わりがあり知っていることで役立つことが理解できた。より一層学びたいと感じた。
- ・「社会保障」というとても広範囲な分野で、たくさんの学びが得られました。講義の間に先生の経験談を入れてくださり、難しい科目もリラックスして聞けました。「生きていく上で必要な社会保障の知識を教えてもらう機会が、どうして20代の若いときなど今までなかったのか。」と思いました。良い学びとなりました。

●公的扶助論

- ・公的扶助は身近な問題で、誰でも要保護者になる可能性を持っている。ラストセーフティネット（最後の受け皿）の機能を持つが、他の社会保障が機能不全を起こしているために、受給者数が右肩上がりに上昇しているということも考えられる。もう一度公的扶助を含めた社会保障の全体像を自分なりに考えてみたいと思った。
- ・貧困問題は決して他人事ではなく、本当に明日自分の身に起こりえる問題として痛感した。豊かな日本において貧困問題などあるはずがないと思っている人も多数存在する。しかも貧困問題は自己責任として片付けられてしまう社会の風潮が根深い。しかし現代の貧困問題は本当に複雑で幅広く社会に浸透していると思う。今回のスクーリングを通して改めてより深く真剣に向き合わなければならないテーマであると感じた。

●福祉法学

- ・判断能力が低下している人を守っていかなくてはならない権利擁護について理解することができました。講義は事例などを通して分かりやすく、そして重要なところは繰り返すためチェックがしやすかった。成年後見制度については、これから任意後見人の役割も重要となることを学んだので、今後の学習に活かして行きたい。
- ・法律関係は苦手意識がありましたが、先生が難しい用語も例を出して説明していただき理解しやすかったです。全ての人がどんな法律に守られ生活できているのか考える機会となりました。より深く学びたいと思える講義でした。

●福祉社会学

- ・福祉の視点からの社会学について、先生の実体験などを取り上げた授業がとても分かりやすかった。ホームレスや差別部落の問題など、報道されないような事実を知ることが社会学の理解を深める上で、とても重要であることを認識させられました。
- ・福祉を知れば知るほど社会の面白さを痛感します。先生のパワフルな講義の中で語られる、海外の福祉現場の衝撃は、今日本で暮らす自分自身のあり方、環境を今一度見直す、「人間とは何か」という点で考えさせられました。

●福祉心理学（p. 15にも掲載）

- ・絵がどのように見えるかを通して、人間は決して正しい認知をしているわけではないことが、実感できました。福祉分野で心理学がいかに大切かということ学びました。
- ・認知症の人がとる行動には、想いや目的を持っていて全て意味があることだと知ることができました。その人が生きてきた人生・背景を理解して受け止めることが大切なことだと考えさせられました。

●医学一般

- ・専門的で特化したものを想像していましたが、身近にある知識に加えて改めて理解に触れる時間になりました。各項目についてまた掘り下げていきたいと思います。
- ・教科書の熟読が必須であると再認識させられました。授業では大切なポイントや理解が難しい箇所を理解しやすく解説していただきとても助かりました。先生の授業展開もよく、大切なところは大きな声で何度もくり返してもらえたことが次に繋がりました。

●福祉行財政と福祉計画（福祉計画法）

- ・あまり触れる機会が少ない分野の内容だったが、実は我々の生活に密接で知れば知るほど面白かった。分かりやすく身近な例を沢山紹介していただき、情報も最新のものです。スムーズに理解することができた。
- ・データが最新情報であり国家試験に参考になる勉強の方法等、気づきがあったことが大変良かった。参考資料も充実しているので復習に役立つ。

●障害者福祉論

- ・障害に対する捉え方考え方が、歴史や制度を通して学んでいくうちに少しずつ変化していき、気づきながら学習することでより、興味と関心が高まりました。先生自身当事者の立場で講義してくださるので、具体的に障害者福祉論が理解できる内容でした。
- ・当事者の方の力を信じること、持っている力・能力・得意とすることを引き出す、発揮できるように支援することが大事だということを改めて感じました。先生は知識も豊富で、引き出しがたくさんあってスクーリングに参加することで勉強になります。そして現場の事情も分かった上での講義をして下さるので、共感できることが多くあります。

●保健医療サービス論

- ・現在精神保健福祉士の資格取得を目指している者です。専門用語や変遷など学習に困っていましたが、国家試験を意識した資料解説などがありとても学びが深まりました。
- ・今回のスクーリングで先生が、今後役に立つことがたくさんあるとお話していたが、講義を聞きまさにその通りであり、自分で知っていないいろいろな所で損をしてしまうと感じた。今回学んだ知識をクライアントの支援にも役立たせていきたいと思った。

●社会福祉援助技術総論

- ・実践と理論を結びつけるための学習という視点が、大切なことだと考えさせられました。今後は、様々な実践の機会を理論と結びつけ、またそれを実践に役立てられるようにしたいと思います。
- ・福祉心理士の科目で必要だったので選択しましたが、社会福祉士の必要性など理解が深めることができました。社会福祉士を目指していなくても、この先の自分のことに置き換えてみると参加してよかったです。

●社会福祉援助技術論A

- ・ソーシャルワークの考え方とカウンセリングでの考え方は似ているようで、全く違うものであることを、事例から学ぶことができた。
- ・実際の福祉現場で活躍されている先生の事例を聞き、全てつらく感じてしまい感情移入してしまった。社会福祉士の対象は高齢者から児童まで幅広く、支援の必要な人が遅れていることを学んだ。また、そのような人たちに対する気づきが必要と感じた。

●社会福祉援助技術論B

- ・先生の事例を通した話を聞いて、世の中の目が届きにくい場所で何が起きているかを理解しやすかったです。その上でソーシャルワークにおいて本来あるべき支援とはどのようなものなのかを考える良い機会となりました。

●社会調査の基礎（社会福祉援助技術論Ⅱ）

- ・社会調査をする際は、調査票の作成以前のプロセスが大事であり、結果についても単純に集計するだけでなく、結果の関係性も分析し「検定」という手法も重要であることを学んだ。

●福祉経営論（福祉施設管理論）

- ・このような学びの機会もないまま、施設の管理者や生活相談員をやっていました。介護保険制度が始まってからは、急激に事業所が増え、人員配置基準を満たすため経験や知識が不十分な管理者が増えているので、今回の学びを活かしこれからの施設運営に役立てていきたいと思います。

●社会調査の基礎（社会福祉援助技術論Ⅱ）

- ・調査をする以前に、問題意識や目的を明確にすることの大切さがわかった。テキストよりもわかりやすく、先生自身の体験も交えて「社会調査」の重要性、社会福祉との関連性を講義してもらったので興味深かった。

●高齢者福祉論

- ・現在介護において、切実になっている課題について重点を置いたもので、その主旨がよく伝わる内容でした。また、資料の文字が見やすく良かった。
- ・現役の社会福祉士の方が講師だったので、福祉現場の実際について内容に重みがありました。状況に応じて見直されることが多くある福祉政策については、関心を持ち続けて行きたいと思いました。

●介護概論

- ・お世話をするというイメージしかなかったが、スクーリングを受講してから考え方や観点が変わり、違った意味で捉え方が新たになった。法制度の成立背景やアセスメント方法など専門的知識を身につけることができた。介護用品なども実際に触れることで貴重な体験となった。
- ・介護現場で実際に行っている介護サービスについて、再確認させていただく機会になったと思います。基礎が大切だと改めて考えさせられました。

●児童（・家庭）福祉論

- ・テーマごとのDVDを織り交ぜながら講義を受けました。現実をより痛切に感じることができ、深く考えさせられました。子どもを対象に捉えていたが、その背景の親世代、地域、制度など様々な要因が大きな問題へと発展していることに何をすべきか考えていきたい。

- ・各コマの内容に沿ったDVDを視聴することで深まりがあると同時に、いかに自分が捉えている視界が狭いかを痛感しました。自相や養護施設、ワーキングプアなど日本が抱える課題はあまりにも多く、児童の権利を通してもっと多角的に捉えていくことが必要であると感じました。

●更生保護制度論

- ・とても分かりやすく、自分が知っている最近の事件が今の法律にどのような影響を与えたのかよく理解でき、楽しく学ぶことができた。今後も福祉と法律について関連付けて考えてみたい。

●就労支援サービス論

- ・相談援助と就労支援サービスについては、一見するとあまり関係のないように思えたが、歴史や障害者、貧困問題などの現代社会の現状を繋げて考えると、社会福祉士は就労支援の相談援助技術の必要性を考えることができた。学習していてもおもしろさを感じた。
- ・ホームレスの支援において、就労と住居を提供することが最も簡単な支援と思いがちだが、それほど簡単ではなく「社会的排除があったから現在がある。」という事実をしっかり受け止めることが必要だと感じた。本人の意思を尊重し、ホームレスを作らないことや受け入れるといった社会改革や意識変化をもたらすことができるソーシャルアクションの必要性を学んだ。

●社会福祉援助技術演習A・I

- ・スクーリングを受講する前は演習に対する不安でいっぱいであったが、多種多様なグループワークやユニークなゲーム形式の授業によって、非常に楽しく受講することができた。また初対面の人と話す訓練にもなりとても有意義なスクーリングとなった。
- ・「人は人によって傷つけられるけど、逆に癒してくれるのも人である」ということを先生が話されていたことが印象的でした。やはり福祉における最後の砦は「人」であるということを改めて感じさせられる授業でした。

●社会福祉援助技術演習B・II

- ・社会福祉士をなぜ目指すのか改めて考える機会になった。「学ぶこと」と「国家資格取得」は別の次元であると話されたことが心に響いた。ただ漠然と講義を受けるのではなく、知識を身につけ、具体的に説明できるようになる必要があると感じた。
- ・援助技術の基礎から事例検討まで演習のスクーリング期間があいてしまった事もあり、復習できたとともに、グループでのやり取りからたくさんの考えが学べたと思います。久しぶりのスクーリングでしたが刺激を受けて勉強し直そうと感じました。

●社会福祉援助技術演習C

- ・事例検討を行うことで今まで思いつかなかったこと、考え方を柔軟にできるヒントが得られたと思います。様々な体験をしている人が集まる場でもあったので、気づきを深め、自分自身を知る良い時間となりました。
- ・グループワークで他者の話を聞くということは、自分の気づかなかった考えを知ることになり勉強になった。また、自分の出した考えに偏りが見られ自己覚知の時間となり今後に役立つと思った。

●社会福祉援助技術実習指導A

- ・実習に対して消極的でしたが、演習を受けて意識が変わり強く学びたい気持ちになった。
- ・詳しい内容の説明でとても理解しやすかった。
- ・個別対応していただき実習計画立案について、理解が深められた。
- ・実習について具体的なイメージを持つことができ、実習先との今後のやり取りについて聞くことで、実習までの意欲を高めることができた。

●社会福祉援助技術実習指導B-1 + 演習C-1

- ・ミクロ、メゾ、マクロについてとても分かりやすく、詳しく説明していただけでよかった。
- ・理論的でポイントが抑えられた講義内容は、実践の考え方の土台になり得るものとなりました。また、現在勤務している現場とは違う実習先でも根本的には同じ援助であることを聞き、前向きな気持ちで取り組むことができるようになりました。

●社会福祉援助技術実習指導B-3 + 演習C-2

- ・実習計画案について非常に不安があったが、いろいろ指導を受けることで理解が深められ、不安が解消された。
- ・記録の書き方について経験者から話を聞け、具体的に学ぶことができてよかった。
- ・グループ内で他の学生の意見を聞くことで、考え方に幅が出てきた。
- ・常に社会資源や最新の法制度の理解をしておく必要性を学んだ
- ・演習を通して、これから自分がやるべきことや自分の考えの間違いに気づくことができた。

精神保健福祉士指定科目（社会福祉士との共通科目を除く）

●精神医学

- ・ 普段、接したことのない現役のドクターやナース、PSW、そして当事者の方々から直接話を聞くことができ、大変有意義なスクーリングだった。実習に向けての準備に役立ったと思う。
- ・ 医学に関して、日常では得られない知識を得ることができた。精神薬についての理解が実際の現場で役立つ気がした。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅰ（精神保健福祉援助技術総論・前半）

- ・ 先生の体験談を聞きながら授業が進むので、精神保健福祉士がどのような仕事であり、どのような心構えでいるべきなのかイメージすることができた。
- ・ 大学に入学して初めてのスクーリングでした。参加する前と後では勉強に対する意識が変わりました。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅱ（精神保健福祉援助技術総論・後半）

- ・ 利用者の感情や受け止め方にも気をつけて、良いところは誉めてできるだけ好ましい表現を用いて、比較をせずに関わることの大切さが理解できた。

●精神保健福祉援助技術各論

- ・ アルコール依存症を家族システム理論から解説されとても興味深かった。アダルトチルドレン、機能不全家族、共依存についての知見も大変面白く、資格取得の勉強のためだけでなく人生にも役立つ素晴らしい内容でした。

●精神保健福祉の理論・精神保健福祉論Ⅰ

- ・ 日本の精神障害者への処遇において、江戸時代より国民意識である倫理観を尊重しながら健常者も障害者も一緒に地域で生活していたことを説明されたことに、深く感銘した。ならば、現在の地域包括ケアも結局は同じ価値観を進めていけるような対応を考えていきたい。
- ・ 先生の講義は物語のように流れがあり、専門用語の説明では具体的事例を出していただき、イメージすることができました。障害者福祉、精神保健福祉の歴史、そして今後精神保健福祉の役割について、学ぶことができました。

●精神科リハビリテーション学

- ・精神障害者の現状を知ることができてよかった。先生も常に精神障害者と接しているの
で、具体的な臨床場面の話を聞くことで現実的な支援が想像できた。
- ・精神障害者が回復し社会復帰するためには、丁寧なりハビリが必要であり長期間を要す
るということに考えさせられた。

●精神保健福祉のサービス（精神保健福祉論Ⅱ）

- ・精神保健福祉法が成立するまでに、様々な問題や事件によって変化していることがわか
り、精神保健福祉法は精神障害者の正しい理解や偏見をなくし、国民に対しての法律と
いうことが分かった

●精神保健福祉の制度（精神保健福祉論Ⅲ）

- ・難しい分野だが、今後の精神保健福祉士や社会全体が常に考えていかなければなら
ない問題も多く、犯罪者という一面だけで考えるのではなく、存在価値や可能性に働きか
けることも重要であるが難しい内容だと感じた。もっと視野を広げて勉強したい。

●精神保健福祉援助演習A

- ・気づきの多い講義であった。コミュニケーションを通して現状の自分の実力について把
握することができた。
- ・演習を通して、様々なロールプレイを積むことができ、支援の重みを感じることがで
きた。全体を見るアプローチ、情報を伝える知識など、いろいろな学びを深めていかな
ければいけないと痛感しました。

●精神保健福祉援助演習B

- ・ICFについて再度自宅学習が必要だと感じた。クライアントの生活について関わる援
助者(支援者)の自己覚知を再確認し、記録等を活用したクライアントへの理解を高めて
いくなどさまざまな知識と配慮が必要と感じた。

●精神保健福祉援助演習B-1+実習指導A-1

- ・実習に向けて取り組まなければならないことを、再確認することができてよかった。KJ
法を用いて、分かりやすく簡潔にまとめることができ理解が深まった。
- ・実習前の学習ということで、内容が盛りだくさんでした。一つ一つがとても勉強になり、
計画書の記載方法も指導頂き、実習をする上での視点がはっきりしました。

●**精神保健福祉援助演習B-2 + 実習指導A-2**

- ・ いろいろな方法や視点から実習の振り返りや課題のきづきなどができてよかった。実習中や記録のコメントだけでは理解しきれなかつた点も、色々な方の意見や感想を通して理解が深まった。

●**精神保健福祉援助演習C**

- ・ 得るものがたくさんあり、「クライアントと同じ問題意識を持ち、ともに歩いていく。」と話された言葉を忘れず、仕事に取り組みます。

●**精神保健福祉援助演習C-1 + 実習指導B-1**

- ・ 役割を決めてグループワークを行い、自分自身の今後の課題などを見つけることができ、実習までにより学習を深めていこうと思いました。
- ・ グループワークを実施するうえでのワーカーとしての姿勢について、とても重要であると思った。メンバーの個別性を見極めながら進めていくこと、その中からの気づきやグループ内の変化等ワーカーとしてどうあるべきかが分かった。

●**精神保健福祉援助演習C-2 + 実習指導B-2**

- ・ 自分では体験できなかったことを他の学生の話聞くことで、知識として補うことができた。インテークの練習ではワーカーがクライアントに共感しながら情報収集するかが難しいことに気づいた。

●**精神保健福祉援助実習（事前指導）**

- ・ 実際の実習時の心構え等、先生の体験談から非常にリアルな内容が伝わってきて、とても参考になった。また、逆に実習に対する不安感も増したが、事前に注意すべきことを聞いたことがよかった。
- ・ PSWとして支援するということはどういうことなのか、改めて考えさせられた。他人の人生の一部に入り込むという難しさ、支援方法で相手の人生が良くも悪くも変化してしまう責任の重さを感じました。

●**精神保健福祉援助実習（事後指導）**

- ・ 自分たちでテーマを決め議論することで、実習中に感じた疑問について、様々な意見を聞くことができ学びが深まった。また、知らない施設等での取り組みについて知ることができ参考になった。
- ・ 地域活動支援センターで実習された方のお話を聞いて、種別によって違う特徴や支援方法など、さまざまな知識や視点が広がった。

心理系専門科目

●福祉心理学（p.6にも掲載）

- ・初めてのスクーリングで緊張していましたが、先生の講義を受けて分かりやすい説明で楽しく学ぶことができました。参加することで今後の学修に活かすことができました。
- ・認知症の方の問題行動とされる行為には、その人の目的や理由があって行われていることを理解することができました。

●心理学概論

- ・教科書のみでは学習を進めることは困難だったのですが、具体例や例え話を多用したとてもわかりやすい講義で、ずっと頭に入ってきました。
- ・今までなかなか理解に苦しんでいたフロイトの精神分析がとてもわかりやすい例をもとに教えていただき、よく理解できました。様々に分かれている心理学が、総合的にまとまっているようにも感じました。
- ・心理学の基礎を学べて本当に良かった。日常生活でいかせることや、考えさせられる部分も沢山あって勉強になった。

●心理学実験Ⅰ

- ・資料やレポート用紙が非常に丁寧に作成されており、重要ポイント等わかりやすくなっていて、大変勉強になりました。
- ・レポートを作成するときのヒントや手順を学ぶことができ、今後のレポート作成にとっても参考になった。

●心理学実験Ⅱ

- ・統計について触れることができたので、文献を見ていく時の理解力がついたと思う。4日間考察を書き続けていたら、文章がまとめやすくなったと感じた。
- ・系列学習の実験をして、改めて記憶のメカニズムに興味を持ちました。知覚運動学習は奥が深く難しい内容でしたが大変興味を持ちました。

●心理学研究法Ⅰ

- ・面接法をより深く知ることができた。
- ・配布資料が見やすくとても良かった。特にパワーポイントの拡大資料がついていたので理解しやすかった。

●心理学研究法Ⅱ

- ・心理検査は、スクーリングに参加する前は自分の中ではあいまいだったのですが、実際の検査の中身を見せていただいたので理解できました。
- ・実験Ⅱを受けてすぐの研究法Ⅱであったので、実験で説明された際によく理解できなかったことが、少し理解できたように感じました。
- ・SPSSの使い方を学べたのは大変ためになりました。普段は触れることができないソフトなので、今後使うために貴重な経験になりました。

●社会心理学

- ・様々な実験結果を用いてスクーリングを進めていただいたので、分かりやすく興味も深まりました。
- ・心理系の授業は初めてだったが、説明されると自分の中の無意識の言動にも起こる現象がいろいろあると、新たな発見に繋がった。

●家族心理学

- ・授業の中で扱われたブリーフセラピーにとっても興味がわきました。MRI、SFAといった理論は、今までのカウンセリングに対するイメージを突き抜けさせてくれる衝撃的なものでした。学会にも入会してみようと思います。
- ・自分の現在の職種が家族支援も必要になる場面が多いことから受講しました。普段何気なく使っている言葉が、無意識のうちに「制限」していることに驚きました。とても新鮮でした。今回を機に、相手が言葉を表出しやすい質問力を身につけたいと感じました。

●人間関係論

- ・日常における何気ない疑問を仮説として、実験によって実証する過程がとても興味深かった。臨床にも深く関わる普遍的な知見に富んでおり、さらに学びを深めてみようと思った。
- ・人間関係において、自分がどのような時に他者を拒絶、受容しているか、改めて考えたいと思いました。
- ・対人関係を理論立てて説明された「維持と崩壊」は、知人や親友、配偶者を思い浮かべながら受講した。納得できる内容であり「報酬とコストによって行動する」という理論は理解できた。対人葛藤の解決方法は、現実に対処している内容であった。

●生涯発達心理学

- ・最終コマに先生が説いた「子どもを信じ、自分を信じ、そして発達を信じなさい」の言葉には説得力と力強さが感じられ、とても感動しました。これからの糧とます。
- ・この講義を聴き改めて自分の人生を振り返り、これからどのように生きていくか目標を立て直さなければならぬと感じた。

●児童青年心理学

- ・今まで学んだ（家族心理学・教育心理学・生涯発達心理学）ことがつながった授業であった。先生の体験からの事例がとてもためになり具体的で分かりやすかった。
- ・先生の家裁での非行少年の調査や家庭内紛争に携わってこられた経歴を基に、児童期、青年期の問題行動と保護者の関わりについての事例を取り上げたことが興味深かった。結局のところ大人が作ってきた社会が、子どもの生きづらさや発達への悪影響を及ぼしているのではないだろうかと考えさせられた。

●老年心理学

- ・高齢者を取り巻く様々な角度からの高齢者への精神的影響について、幅広く学ぶことができ、また他の学生との交流のあるスクーリングで長時間でも楽しく学ぶことができた。
- ・特に認知症の分野では理解が浅いことで、症状を悪化させてしまう可能性があること、社会的・文化的な考え方の影響で周囲に助けを求めにくいことから、虐待など様々な問題が生じてしまっていることに深く考えさせられた。

●教育心理学

- ・「教育は学ぶ人の味方になって考える」という考えに気付かされました。なぜ「ごほうび」では人は動かなくなるのかが理解できました。
- ・「教育」という文字に対する硬くて楽しくなさそうなイメージを根本から覆されました。教育をする側、受ける側のどちらにも知られるべき内容がたくさんあり、様々な現場、場面でどのように落とし込めるか考えさせられる講義でした。

●障害児の心理

- ・発達障害児の特徴や治療法など、先生の体験からの事例を出していただいたので、とてもわかりやすかったです。社会によって障害の重さが変わるということを改めて考えさせられました。
- ・障害を持つ子どもの正しい接し方なんていうものはなく、その子に応じて人それぞれに合った接し方があるのだとわかり、それは障害をもつ人ももたない人も同じだと感じました。

●人格心理学

- ・いじめが起こった場合であっても加害者も含め、誉めて正のストロークを与えることで変えていくという点に関心を持ったと同時に、とても考えさせられた。関わり方で子どもたちは変化していくことに関心を持った。
- ・人格心理学とはどのような講義なのかあまり興味がなかったが、講義が進むうちに今まで学習してきた科目との関連が面白いように繋がりとっても面白く思えるようになった。

●ライフサイクルと福祉心理学

- ・ S.S.Wとして勤務しており、子どもの成長、発達、家族とのかかわりについて、とても興味のあるお話でした。目の前にいる人を見る時、その人の全人格、全人生を見る努力をし、共に悩んでいくことが大切だと思いました。
- ・ ライフサイクルという言葉をよく聞くが、自分もっていたイメージとは違って、一人ひとりの生き方に関わる、深い意味があるのかなと受け取りました。中年期の生き方の重要性、危険性も教わり、良かったです。家族や親子の問題は解決できなくても、引き受け、向き合っていくことが大切との言葉も、このスクーリングで得た大きなことです。このスクーリングに参加して良かったです。

●臨床心理学

- ・ 資料やDVD、パワーポイントを活用し理解しやすかった。資料について分かりやすく、余白もあり書き込める等助かりました。「援助専門家の力」の講義で、客観視の重要性和自分の存在(表裏一体)について考えさせられました。
- ・ 臨床心理学は、これまでの基礎人格理論を下に、実際の心理療法などを行っているというのが理解できた。自分自身はまだまだ基礎人格理論を理解し切れていないので、もっと理解を深めていきたい。

●心理療法

- ・ 心理療法の導入、展開、発展について文献が多様であることを知ることができました。歴史を知ることにより、現在から未来への望みを深められることができました。
- ・ グループワークの体験を通して相手を理解したり、自分自身の言動に気づかされることが多くありました。普段の生活場面で考えていることをすぐに口にするよりも、一度考えてから発言することの大切を感じました。

●カウンセリング I

- ・ カウンセリングの疑似体験的なグループワークがとても印象に残りました。自分の「人生曲線」を自己開示することは勇気が必要でしたが、初対面の方の「人生曲線」を聞いたりしているうちに、自分の人生の目標が明確になったり、話すことで開放感を感じたりできました。
- ・ 「カウンセラーはクライアントを尊重する」という言葉が予習時にはあまり理解できなかった。人はそれぞれ違うのだから当たり前くらいに思っていたが、とんでもないことで、自分の奥深くある本来の自分の姿を知らなければ、相手を尊重することはできないということが理解でき、本当に人はそれぞれに生きているのだと感じられた。

●カウンセリングⅡ

- ・先生ご自身のスクールカウンセリングの経験談をたくさん聞かせていただいたことで、改めて、大学院進学を含めた、スクールカウンセリングへの希望を高めることができました。カウンセラーの魅力を伝えていただいた授業だったと思います。
- ・カウンセリングを行う上で、技術がきちんと使い分けられるようになるには、実践の必要性が高いと思いました。それを自然に行う先生の話し方が、とても素晴らしかったです。

●産業カウンセリングⅠ

- ・職場のメンタルヘルスにとっても興味があり、受講して理解を深めることができた。特に医療の現場では、チームワークといわれるが、自分だけが良くしようと思っても難しいところがある。そんな時に今回の授業で出てきたコミュニケーション能力が重要になってくると思いました。
- ・メンタルヘルスについて様々な文献をあたりましたが、あまり理解できませんでした。今回の授業のプリントはとても理解しやすいものであったので、今後のメンタルヘルスマネジメント検定を受ける時にとっても使えそうだと思います。

●産業カウンセリングⅡ

- ・実例を基に講義が進められ、ロールプレイなどもあり具体的で分かりやすかった。
- ・カウンセラーとしての立場での勉強のはずなのに、講義を受けていると自分の内面と向き合っている時間のほうが多い気がして、とても癒され楽しく受講できました。

●カウンセリング演習Ⅰ

- ・他人の話聞くことは大変なことだと体験を通して強く感じた。自分の態度や言った言葉で、相手の考えや行動が違った方向へ向かうこともあると思うと、責任を強く感じる授業でした。

●カウンセリング演習Ⅱ

- ・カウンセリングでは客観性も大切で、自分の価値観や感情に縛られてはいけないと分かっているにもかかわらず実践の場でそのような態度をするのはとても難しかった。普段の会話、特に職場での会話で訓練してみようと思った。カウンセリングでは問題の本質をしっかりと見極めることがどんなに大事かを教わりそのためには自分の考え方をどのようにはずしていけるのかについて、深く考えさせられた。

●学習心理学

- ・分散学習が良いこと、変動比率スケジュールで学習したことは消去しにくいということがわかりました。普段の生活に生かしたいです。
- ・レポートの書き方を丁寧に細かいところまで説明していただき、書いてみよう、書こうという意欲につながりました。ありがとうございました。

●特講・福祉心理学5（自分さがしの心理学）

- ・自分自身が持っている自己像と他人が抱いているイメージは、必ずしも一致しないということ・・・これは、いつも自分自身を全部みせているわけではないので当たり前だと思うが、今まで考えもしなかった。
- ・改めて自分の考え方、行動のクセについて正面から向き合うことができました。適切な他者理解には、まず適切な自己理解がなされるべきであることが実感できました。講義だけでなくワークがあったことで学びが深まったと思います。

●特講・福祉心理学9（コミュニティ心理学）

- ・リアルな症例をもとに理論展開していただき、自宅学習よりもスムーズに理論や技法への理解が深まった。コミュニティ心理学はより現実的で、応用の幅のある学問であると感じた。
- ・コンサルテーション、サポートネットワーク、危機介入など関心のあるものばかりで、スクーリングに来てよかったなと思いました。1対1ではなく、周りの人の力を引き込むことが解決に結びつくし、社会や組織を変えていくことに繋がっていくのだと感じました。

●統計情報を見る目

- ・統計は難しいと思い苦手意識があったが、福祉心理を学ぶ上で必要なため受講しました。分かりやすい事例を用いて説明してくださったので理解が深まりました。今後は様々な統計データをじっくり見てみようと思いが湧きました。
- ・日常のデータはとても身近であるが重要にはしていませんでした。授業を受けて意識してデータを読み取ることで、考え方や生活が変化していくと感じました。これからのデータを大切にみていきたいと思いました。

●人的資源論

- ・今までニュースなどで耳にしていたが、全く分からなかった用語が分かり興味が増した。人も資源であり、自分が身につけた技術が商品となっていることを知り、益々自己研鑽が重要であると思った。
- ・「人的資源」というのはどういう意味かと思っていましたが、授業を受けたら非常に分かりやすく、楽しく理解できスクーリングを受けてよかったです。

教職系科目・幼保特例講座科目

●介護実習事前（・事後）指導+介護技術

- ・何となく行うのではなく、根拠を持って介助することの大切さを学びました。持ち上げない移動の方法など、明日から何故そうするのかを説明できるよう実践していきたい。

●発達障害者の心理

- ・視覚認知と視覚記憶の違いや処理と保持は分けて考えた方が、その子はどこが苦手なのか分かるということがわかってよかった。実例や研究結果があってわかりやすかった。
- ・発達障害のある子が日頃どのように感じているのか、疑似体験できたことがよかった。先生の説明がとてもわかりやすく、特に今まであいまいだったWMの知識がとても深まった。

●聴覚障害教育

- ・聴覚障害にとどまらず、発達障害や知的障害など重複が多い障害の内容も授業に含まれており、子どもを見るとき視点に役立つ講義でした。
- ・実際の映像や当事者からの話などから、障害者教育の現場や現状を知ることができました。このような実際の内容を聞くことで、より障害者教育の重要性を考えることができました。

●障害者教育実習の事前（・事後）

- ・特別支援学校の概要が整理できた。教育実習の心構えを再度確認できよかった。
- ・実際の現場や実習の様子などDVDで見ることができ、イメージしやすく気をつける点が整理できた。

●特別支援教育支援員概論

- ・実技車椅子体験は普段やることがないので、良い経験となった。
- ・グループワーク等盛り込まれて、いろいろな意見が聞けて勉強になった。

●乳児保育

- ・幼稚園教諭時代は、教育に重点を置きいろいろと物事を考えていたが、養護という視点は不可欠であると感じました。養護の勉強不足があるので更に自己学習を進めたいと思います。

オンデマンド・スクーリング開講科目

(2016年度以降に講義を収録しなおした科目を中心に掲載しています)

●ボランティア論

- ・ ボランティアと NPO 法人について不明瞭な部分が良く理解できてよかった。ボランティア（福祉活動）とは人と人との関りであり、安定した人間関係を構築することが大切である。みんなが幸せを感じていくためにはどうしたらよいかを考えていく必要があると思う。
- ・ 講義は楽しかったです。レポート課題で辛かったので楽しい授業が聞けて良かったです。医療・福祉の現場にて感じる事を他の人も感じていたりするのだと思い励みになりました。

●社会福祉学入門

- ・ 社会福祉という概念について非常に興味深く学ばせていただきました。とくに講師の先生も指摘されていた通り、その歴史背景にも踏み込んだ講義内容だったので、立体的に理解することができたことに、深く感謝いたします。
- ・ 障害福祉の歴史は、人間としての自由や尊厳が与えられずに過ごしてこられたことに胸が痛みます。また、近年問題視されている児童虐待の増加や貧困について、その子供だけでなく保護者のケアも同時にしていくことが必要ではないかと思いました。

●社会福祉原論（職業指導を含む）

- ・ 社会福祉原論ってどんな学問なのか、何を学ぶのか、と思いましたが、社会福祉の原点とも言うべきものを探求する、そんな学問なのだと思います。これから福祉の仕事をしていくうえで、どんな姿勢で臨んでいくべきかを学べたと思います。
- ・ 社会福祉を学ぼうとした自分自身の中途半端な考え方に愕然とした。「学ぶ」ということの意味をあらためて考えさせられた講義であったと思う。今後社会福祉を学び、実践していくうえで常にその道を問い続けていきたい。

●社会保障論

- ・ 社会保障とは私たちの生活に密着した、「日常」の学問であるということを実感しました。スクーリングを通じて、特にミニマムとオプティマムということに関心を覚えられたので、そのあたりの視点を大切にして世の中の流れに気を付けたり、次に公的扶助論を勉強する際に活かしていきたいと思います。
- ・ 今後も福祉の分野で勤務を継続していく上で、社会保障はどの世代を支援していくうえで必要な事であり今後も変化をきたしていく事柄だけに、日頃より見聞きをし情報の収集や学習の継続が必要だと思いました。

●公的扶助論

- ・ 貧困に関して、あまり身近な問題ではなかったが、先生の話や、紹介された本を購入し読むことで、「貧困で苦しんでいる人がたくさんいることや、行政の対応」等、考えさせられた。
- ・ 不正受給は許されないと分かっているにもかかわらず、誰でも金銭的に豊かになりたいという思いがあると思います。人によって必要とする金額は様々であり、何をもって最低限なのか、考えさせられました。

●福祉心理学

- ・ 心理学というのはこういう視点から物事を考えるのかと思った。視点は少し見えたが、自分の中で消化するにはもう少し学んで心理学だけでなく、様々な角度からの考えを知りたいと思った。
- ・ 色々な事例を織り交ぜながら講義して頂いたので、耳に入りやすく、理解もしやすかった。また機会があれば、福祉心理学に触れてみたいと思いました。画面の操作性もシンプルで使いやすいと思います。

●医学一般

- ・ 心臓が動いているのが当たり前だと思って意識などしていませんでしたが、今回の授業を聞いて身体の神秘的なものを感じました。両親からもらった身体を大事にしたいと思いました。
- ・ 身体の構造や、病の過程を学ぶことによって普段の生活態度を改め直そうと考えることができた。

●家族法

- ・ 日頃は法律についてあまり学ぶ機会はありませんが、家族法の基本的な部分に触れることができたのはよかったです。厳密に見ていけばほんとに奥の深いものだと思います。講義の中で言われていた「市民感覚」でとらえるという見方が大事ということでしたが、常にそうした感覚を磨くということが問題解決に必要なのだと思いました。

●福祉行財政と福祉計画

- ・ 福祉の実施体制の中で、国と都道府県、市町村では、それぞれ役割が違い、また義務付けられている組織や団体も異なるということが明確にわかり参考になりました。
 - ・ 日本人として知っておくべき国の歳出の基本的な中身や予算の中身から見る国の近年の動向をうかがい知ることが出来てよかった。
- また、地方分権が財政的には全く進んでいないという厳しい実情を知ることができ、学問的にも理解が深まった。

●保健医療サービス論

- ・ 今後、社会福祉士として業務をして行く為には外す事の出来ない科目でもありますし、年々医療制度や福祉の制度も変更されていくので自分の中で新しくしていく必要があるかと思いました。
- ・ 医療制度や保険制度などの知識があるということは、業務の点からだけでなく、日々の自分自身の生活にもとても役に立つと感じた。

●社会福祉援助技術総論

- ・ ソーシャルワークの形成過程（歴史）からはじまり、倫理綱領、ソーシャルワークの実践に必要な視点など全体のつながりがよく理解できた。あらためて現代社会で社会福祉士が求められている状況を把握し、利用者と社会に期待されるソーシャルワークを行わっていきたいと考えさせられた。
- ・ 生活福祉課の職員として、基本となる知識は持っていたものの、改めて考えさせられる内容が多かったです。バイステックの7原則は特に肝に命じ、相談援助業務を執り行いたいと感じました。

●精神保健福祉の理論

- ・ 精神保健福祉士は、福祉のことだけでなく医療の知識も非常に大切になるのだということがわかりました。また、入院のプロは精神科医であり、退院のプロは精神保健福祉士であるという先生の言葉がとても印象的でした。
- ・ Y問題などの過去の精神保健福祉における様々な問題の詳細について、具体的に知ることができとても勉強になった。

●精神保健福祉のサービス

- ・ 初めてオンデマンド・スクーリングを受講しました。実際のスクーリングと比べて講義時間が短縮されていたり、前もってスクーリング試験の問題が提示されたり、こちらの方がゆとり効果的だと感じました。現在4年生ですが、もっと活用すればよかったと思いました。
- ・ 実践的な内容を話してくださり、またわかりやすく話してくださったのでよかったです。本当はスクーリングに行ければよかったのですが、オンデマンドでも十分先生の人柄も伝わりました。

●精神保健福祉の制度

- ・ 医療観察制度、更生保護制度に興味・関心をもった。日本においてはまだまだ精神保健福祉の制度の整備が必要なことと社会の理解が不十分であることを改めて感じた。

- ・精神保健福祉の制度とそれを取り巻くほかの制度との接点で、関係者間に発生するトラブルの原因が理解できたように思います。この点を中心にレポート等を書き上げていきたいと思います。

●発達障害者の地域支援

- ・「すべての子どもに支援を」という言葉に感銘を受けました。子どもたちは地域社会の宝物だと思っていましたのでとても共感できました。それが出来たら日本の未来も明るいと思います。
- ・新たな視点を得ることができました。特に、今後の特別支援教育や福祉の方向性・ありかたについて、多くの示唆を得ることができたと思います。今回得た内容を、今後どのように生かしていくかを考えなければならないと考えているところです。

●心理学概論

- ・とても分かりやすくかみ砕いて教えていただいたので理解しやすかったです。私は児童センターで働いていますので、乳幼児から小学生の発達のあたりに興味がありました。知識が深まったと思います。
- ・レポートの形成をし一緒に行動し、その行動の振り返りの確認をする。これは人間関係を築いていくために必要なプロセスなのではないだろうか。とても興味を覚えた。

●心理学研究法 I

- ・心理アセスメントの勉強部分と似ている部分があり、内容を補えたように思えた。

●人間関係論

- ・社会的交換理論や拒絶感受性など様々な理論を学んで、自分では自身のことをこのように理解していたが、そうではなかったと自己知覚し、自分自身の対人関係での悩みの傾向に気付く機会となりました。
- ・人間関係論は心理学の学問の中の一部であることから、心理学について深く学びたいと思うきっかけになった。

●学習心理学

- ・見やすい資料、分かりやすい説明、聞きやすい授業内容でした。またぜひ、先生の講義を受講したいです。

●生涯発達心理学

- ・私は「子どもを育てる」という課題に取り組まないまま、老年期を迎えることになりました。子どもを持つ女性に比べて人とのつながりが弱く、老後寂しい思いをするだろうと漠然とは思っていました。今回の講義を受けて、生きがいを持った豊かな老年期を迎えるためには、現在をどう生きるか？が重要だということに気づかされました。

●認知心理学

- ・事例が多く挙げられており、それぞれ丁寧に解説してもらえたので、興味を持って聴くことができ理解が深まったと思う。

●障害児の心理

- ・障害児を理解する講義だったのだが、最終的には『自分を信じること』が、大切であることを教えて頂きました。人生において、何事にもあてはる一番心の底にある大切なことに、気付かされました。

●心理アセスメント

- ・初めてオンデマンドスクーリングを利用しましたが、とても使いやすく非常に勉強になりました。仕事と子育てとある中で、まとめてスクーリングの時間をとることは難しく、かといって自学でレポートと試験を受けるのも不安でした。その両方の不安と悩みを解消でき、先生の講義を聴きながら勉強できるオンデマンドスクーリングは私にとって本当に良かったです！もっと早く利用すればよかったと思いました。とても丁寧なつくりになっていて、確認テストや掲示板での他の方の発言もとても勉強になりました。

●人格心理学

- ・人格心理学とはどのような講義なのかあまり興味がなかったが、講義が進むうちに今まで学習してきた科目との関連が面白いように繋がりとっても面白く思えるようになった。オンデマンドで受講して一時停止が出来るので、大切な個所を書き写すことが出来たことが良かったと思う。

●老年心理学

- ・記憶はなくなっていくが、認知症の本人にも感情があり、一つ一つの行動には意味があるということを理解することが大切であると再度認識させていただきました。また、高齢者への虐待は、介護する側の心理的・身体的状態にも関係していることから、きちんとしたサポートが必要なのだと学びました。

●統計情報を見る眼

- ・統計学に関して不足していた知識を補足することができた。統計学的な視点ができるようになると価値観も変わるのではないかと感じた。データを意識的に捉えるように日常から意識づけたい。

●特講・福祉心理学（コミュニティ心理学）

- ・コミュニティ心理学について、今回初めて学びました。ソーシャルワークとの共通点が多く、講義の内容は、今後の私の実践の参考となるものでありました。穴埋め式の講義も、集中力が途切れてしまいがちなオンデマンドスクーリングには、とても効果的だと感じました。

●特講・福祉心理学（スクールカウンセリング）

- ・いじめに関することと、緊急支援の流れについては、とても考えさせられた。被災地ということ、また、今はどこでも災害が起こっていることため、心構えとしてとても重要な内容だった。災害時にも、遊びは必要ということは当たり前のようだが、何か、とても罪悪感を持ってしまいがちであったが、遊びで心や身体的にも落ち着くことができるし、成長にはとても大事なことだと思った。